

議 長 受付番号第2号、中野博君の一般質問を許します。登壇願います。

2 番 中 野 交流人口（観光客）の増加策を問う

要旨 質問書のとおり

町 長 それでは中野議員の御質問にお答えを申し上げます。

まず1つ目の寄地区の自然を生かした観光客誘致の対策はということでございますが、町ではこれまでも地元の方々の協力のもとに、ロウバイや桜など季節を感じる、感じさせる花を生かしたイベントを初め、寄地区の緑や清流を楽しむことができるハイキングコースを設定し、町ホームページやパンフレットなどを通じてPR活動をすることで観光客の誘客に努めてきてたところ、このごろ、近年では新緑の今の季節、当町へのハイキングを目的とした中高年のグループをよく目にすることとなりました。また、寄地域のハイキングコースは、寄自然休養村管理センターから、最明寺史跡公園を抜けて西平畑公園へと向かうコースや、山北町方面へのはなじょろ道と高松山ハイキングコース、1市3町の取り組みとして、秦野市へ宇津茂から三廻部林道、戸川公園を通り渋沢駅に抜けるコースなどなどがあり、町内にとどまらず松田町から他市町にも広くネットワーク化されております。

さらには、現在神奈川県では「未病を治す」をキーワードに、県西地域活性化プロジェクトにも取り組んでいるところでございますので、この機会をチャンスと捉え、松田町の観光資源を未病癒しの里として、森林浴による心の癒しや、栗拾い等々の体験などを行い、桜やロウバイなどの花の魅力にひたりながら、地元の産品を利用した地域の食材を堪能していただければどうかというふうに考えてもおります。

今後、観光客を誘致するためには、寄地区の丹沢山系につながる山々の緑や清流などの豊かな自然の中で、ハイキングや農業体験、または寄養魚組合、ドッグラン等の観光資源が、今現在、点と点みたいな格好になっておりますので、そういったところをつなげて、地域の中のさまざまな方々と協働をし、一連の循環を円滑にすることが重要なことと思っておりますし、都会にはない最大の魅力であることは間違いはないというふうにも思っております。このことから、寄地区の自然と里山を、未病癒しの里、さらに癒しを感じ取る実践の場として、

引き続き観光客の誘致に取り組んでまいりたいというふうにも考えております。

続きまして、2つ目の松田ブランドの開発ということについてお答えを申し上げます。議員御承知のとおり、松田町では特産品開発事業の補助金のほか、寄地区の方々のお力をお借りして、佃煮などの特産品開発を実施してきた経緯がございますが、残念ながら販路や生産の拡大が進まず、町の特産品としては、はっきりとした成果があらわれてきてないのが今の現状でございます。このような中、町では特産品開発事業補助金要綱を、個人単位でも使えるように枠を拡大をし、町の特産品として認められるようなものをつくりたいという強い志を持った方の事業に対し、補助ができるように見直しを行ってまいりました。また、本年度予算には、松田ブランド認定委員会の設立に係る委託経費を計上しておりますので、特産品開発事業補助金を活用してつくられた一次産業から六次産業までの作物や製品はもちろんのこと、現在松田町で生産されている産品につきましても、認定委員会で認定されたものについては、松田ブランドとして強くPR活動を推し進めてまいりたいというふうにも考えております。

3つ目の街中にトイレを設置する考えはという御質問についてであります。最近ではユニバーサルデザインや防災の観点からも、誰もが安心して使える街中トイレの重要性が増しており、まちづくりの観点からもその町のイメージを左右し、時には商店街における集客にも影響することから、まちづくりや施設設計上での最優先課題ともなってきたというふうには認識をしております。私も、松田町を訪れる人にとって、歩くことが楽しくなる町、美しい町をつくり、町を歩き楽しむ上でも、誰もが利用できるきれいなトイレがなくてはならないというふうにも思っております。

しかしながら、トイレの設置につきましては設置場所の確保や維持管理の問題、建設費の問題等がございます。過去にはそのようなトイレが、若者たちのたまり場と化し、いたずらされた経緯もあり、地域で管理しきれず閉鎖したトイレもあるというふうにも聞いております。また、常設トイレの建設にかかる費用の一例といたしまして申し上げますと、中丸公園のトイレの建設費用が約1,100万円、寄ふれあいドッグランのトイレは1,800万円と、非常に高額な費用を要することを鑑みますと、すぐに常設トイレを町中に建設するということよ

りは、今後、現在これから取り組んでまいりますけども、町中につきましては都市マスタープランの整備を念頭に、まちづくりや施設計画をしっかりと行った上で、常設トイレの建設を行うべきというふうに考えております。ただ、それでは時間がかかってしまいますので、私としては桜まつりなどのイベント等で設置しております、きれいさ・快適さにこだわったおしゃれな仮設トイレ等々がありますので、そのようなものを購入し、地域の方々に御理解いただければ常設という形で設置し、建設費用も短縮が図れるのではないかと。また、維持管理につきましては、地元商店街や自治会の皆様に設置の意義を御理解をいただき、管理のお願いができるのではないかなど、現在担当課に検討をさせているところでございます。おしゃれな仮設トイレが建設できる条件が整った場合には補正予算を組むなどして、改めて議員の皆様にご説明申し上げたいというふうにも考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

また、第一義的な街中トイレに関しましては、松田町商工振興会の皆様や、また、各商店街の皆様を通じ、桜まつり期間中の商店街有志の方々10店舗のトイレ開放を御協力をいただいております。そういった分ですらにより広域的な方々にですね、日常的にそういったトイレの開放をお願いできないかどうかということも呼びかけて、今後の、今、現状困っている部分の不足数の解消に取り組んでまいりたいというふうにも考えております。以上です。

2 番 中 野 今、全国的に少子高齢化、並びに人口減少ということで、全国の各市町村、元気がなくなってきていると言われております。この松田町においてもしかりでございます。以前は上郡の5町の中心的存在であった、大いににぎわったこの松田町は、今はすっかり影をひそめてしまっているところでございます。私は、今この松田町に元気を取り戻すということについては、町長、常々言われております、観光と農業に活路を見出したいということのほかなかろうかなと思っております。そのために、環境経済課から観光経済課へと名称を変えた、このあらわれであろうかなと思っております。

2020年には東京オリンピックが開催されます。そして今、待ちに待った圏央道が開通をしまして、都心や東北地方からもどんどんと観光客が西湘地区、湘南地区、また熱海・箱根へと押し寄せてまいります。2020年、オリンピックが

開催されますと、その数はどっと、もっと何十倍も来ると

議 長 ただいま、停電により議事進行が困難となりました。詳細が確認できるまで
暫時休憩といたします。 (10時03分)

議 長 休憩を解いて再開をいたします。 (10時15分)

2 番 中野議員に申し上げます。約10分のロスでございますので、持ち時間が53分まで、時計で、親時計で53分までの時間で質問をお願いいたします。10時3分から始まりましたので、約10分延ばしまして40分の持ち時間です。53分までの持ち時間で質疑をお願いいたします。

2 番 中 野 では、再開をさせていただきます。途中からですが、2020年には東京オリンピックが開催され、この地域にもどっと観光客が押し寄せてくるものと思われ
ます。そして同じく2020年、新東名が開通をされますと、このお隣の山北町の
清水地区にスマートインターチェンジができます。そして、同じく2020年には、
南足柄から仙石原へと抜ける南箱道路も開通が予定されております。我が松田
町の周りには、観光ルートとも呼ぶべき、呼ばれるべきすばらしい道路が続々
とでき上がってくるわけでございます。

この清水地区にですね、スマートインターチェンジができますと、そこをお
りたお客様は、まず想定されるのが丹沢湖方面へと向かわれることになろうか
と思います。以前ですと、そのままですと、また来た道を下って南箱道路を通
り箱根や熱海へと向かってしまう。つまりは、松田町にはおりに通道路とな
ってしまうわけでございます。そこで、私は、この丹沢湖まで来たお客様、
そのまま通過をさせてしまうのでは何とももったいないと。これを何とか寄地
区に誘致できないかということで、御存じのとおりあそこに今は閉鎖をされて
います秦野峠線林道がございまして。これは、総額43億円、幅5メートル、延長
15キロのすばらしい道路です。私も有害鳥獣駆除、管理捕獲等で、今でもあそ
この道路を何度か使っています。一般は通れません。両側にゲートがされてお
りますので、通れません。どうして通らなくしてしまったのかと、不法投棄等
を恐れているからだと思いますが、しかし、通らないがために、今ではそれだ
けの巨額を投じ、すばらしい観光道路とも言えるこの秦野峠線が、岩がごろご
ろ、特に秦野峠から玄倉方面へは岩がごろごろ、そしてところどころには、ア

スファルトの割れ目からススキが生えてしまっているというような状態でございます。一般車はととてもとても走れるような状態ではありません。これを何とか観光道路として使うことができれば、丹沢湖方面に来られたお客様は、寄へと誘致ができるわけでございます。幸いにも3月定例議会のときに、そのことに気づいてくれた山北町さんが我が松田町にもお声をかけてくださり、一緒に県への要望をしないかということで、寄の議員さんお2人が委員となられて、今多分要望が始まっているのではなかろうかと思いますが、まず、私は何としてでも寄を活性化するために、この観光ルートを開通をさせてほしいと思うわけでございますが、課長、その進捗状況はどうか。

参事兼観光経済課長 その件につきましては、山北町からの要請もございまして、地域の自治会長さん、実は虫沢の自治会長さん、弥勒寺の自治会長さん、それとあと宇津茂の自治会長さん、そのようなメンバーがたしか5月に1回、山北のほうとも事前に打ち合わせを済んだと。町のほうといたしましても、今現在、山北町の担当課長と私どものほうと調整を進めておりまして、県要望の中には間違いなく載せると。連名に載せるか、個々に、同じ内容ではあるけれども、並列で載せるのか、そういう形まで今調整は済んでおります。ですから、今後の中でも要望書という形の、町から、各市町村から県への要望書の中には、必ず取り組んでいくというふうな形まで今現在進んでおります。

2 番 中 野 課長、ぜひですね、要望書ということで取り組んでいるというだけでなく、今後この松田町が生き残れるか残れないかということの境にもなろうかと思えます。絶対にやっていただくというような気持ちで臨んでほしいと思えます。これはですね、私は町長にぜひお願いをしたいと思えますが、町長、いかがでしょう。

町 長 御提案いただいている件は、私も就任して間もないときに山北の湯川町長にお話をし、山北も同じような気持ちで取り組んでいるけども、今現在の状況に至っているという経緯も教えていただきました。その間、中野さん同様とする議員の方々、また地元の方々、またこの県西地域を何とかしなきゃならんという思いの方々によって、議員さんたちが動く前にそういうお話をいただいて、地域の方々、山北の地域の方とまず地域の方々のマッチングをしているのが今

の現状であります。

私といたしましても、その43億かかった当時の町長さんたちの思いもですね、やはり形にしていかなきゃいけないというのは思っておりますので、より現実的にこれが一步でも二歩でも前に進めるようなことを進めていかなきゃいけないと思っておりますので、そういった件でいくと、松田と山北町だけでこの秦野という名前がついている秦野峠林道が開通するとは思ってはおりません。ですので、今後は秦野の古谷市長も一緒に、かねて、昔天領であったという秦野から越えてきたこの道をですね、実際のものにしなければならないというふうにも思っておりますし、先ほどの第二東名の話で言うと、山北のスマートインターの話がありますけども、秦野の菩提のほうにもインターチェンジがあります。ですから、秦野のインターチェンジでおいてもらって、秦野から松田町のほうが割かし整備がやりやすいという情報もいただいているところでございますので、そちらのほうの整備から松田に入り込んでくるというルートも並行して検討しなきゃならないというふうに思っております。いずれにいたしましても、この道路の開通で県西地域、ましてやこの辺の山を抱えている我々としても非常に有効な道路だというふうに考えてますので、今後とも引き続き強く要望してまいりたいというふうに思います。以上です。

2 番 中 野 あそこの秦野峠林道は、観光道路としてはもううってつけのすばらしいロケーションですね。それと、そればかりか、やはり開通ができれば、いざ災害というときにもいろんな意味で使い道があろうかと思っておりますので、ぜひぜひ強く要望していただきたいと思えます。

次に、神奈川ロケーションサポートデスクという県庁に部署がありますが、これ、課長は多分御存じであろうと思えますが、神奈川ロケーションサポートデスク、これは全国でも非常に珍しく、県がこのような部署を設置するのは非常に珍しい例だということです。昨年の8月にこの新しく設置された部署ということで、何をやるかといいますと、神奈川県ですばらしいロケ地、映画、ドラマ、テレビですね、ロケ地を神奈川県が制作会社に紹介をするということのその部署です。これは非常に珍しいということで、今神奈川県には既にそれによってロケを行われた箇所が6カ所ですか、あります。山北でも2カ所

登録されているということでロケが行われたということです。大河ドラマほどではないですが、いざロケが行われてそれがヒットをしますと、そこにどっと観光客が押し寄せてくるんですね。神奈川県は、そのようなことをねらって制作会社にあっせんをしているということで、これのガイドブック等がもう発行されていまして一般でも見られるということで、そういったところへは観光客がどしどし押し寄せてきていると思います。

我が松田町では、そういったことをやっておられるか、過去にやった経緯があるかどうかはわかりませんが、ぜひ我が松田町もすばらしい西平畑、寄、いろいろな映画やドラマに適した地があろうかと思います。これは現代劇か、時代劇か、アクション映画かわかりませんが、それはそれで制作会社にお任せすればいいことでありまして、このような自然豊かなところをぜひこのデスクに登録をしていただいて、いつの日かすばらしい大河ドラマでもここで撮影が行われるようなことになれば、すばらしく観光客が押し寄せること請け合いですと思います。課長、いかがでございましょう。

参事兼観光経済課長 神奈川県のリケーションサポートデスクですかね、昨年8月に県観光課のほうで立ち上げた事業でございまして、松田町におきましては、一応当然うち自体がフィルムコミッションというのがございませぬのでね、そこら辺は最明寺の、とりあえずそのパンフレットの中にはハーブ館のほう載せております。以前の経緯を御説明申し上げますと、平成15年ぐらいから平成23年ですかね、あしがらフィルムコミッションという形で同様な施設をつくった経緯もございませぬけれども、23年度ぐらいにちょっと立ち消え的になってしまったと。その後昨年このようなフィルムコミッションの仲立ちをしてくれる、要はロケと、うちのほうは観光したい、PRしたい、地元のほうもそれを見たい、という形の中で、今、議員おっしゃられましたように、今載せているのは最明寺だけなんです…あ、最明寺じゃなくて西平のハーブ館だけなんですけれども、今後は確かに最明寺とか、今後、未病という形でいろいろPRもしていきたい、外国人の方にPRしていきたい中では、どしどし載せるような形で進めたいと思っております。ありがとうございます。

2 番 中 野 ぜひそのような形に持って行っていただきたいと思います。全国にPRする

にもいい機会になろうかと思っておりますので、お願いいたします。

次に移ります。昨年日本、我が国を訪れた観光客、外国人の観光客は、前年対比29%増の1,341万人だったそうでございます。これは、2年連続して最高の数字だということでございます。そして、その経済効果というものが2兆円。非常に大きなものでございます。2020年の東京オリンピックには、1,341万人、去年なんです、2,000万人を優に超えるであろうということでございます。各自治体、このお流れを少しでも頂戴したいなということで躍起になっているところでございます。交流人口の増加策、これは名所旧跡もさることながら、やはり私はそこに劣らず郷土色豊かな食のブランド、これが必要であろうかと思っております。私はこのことを何度も申しました。平成19年、33万人が来た桜まつり、しかしながら非常に不評を買って、松田町には買って帰る土産がない、食べるブランドがない、食がないということで、非常に不評を買って、今、昨年は、ことしは14万人と大幅に減になっているのであります。

確かに食のブランドのためにということで補助金は計上されております。合わせて150万ですね。しかしながら、過去にもそれを使って飲食店組合さんがいろいろおやりになったようですが、これといったブランドが生まれませんでした。しかしながら、近隣の他町では一生懸命にとこのことに打ち込んで、町ぐるみになって、地域ぐるみになって、全員でもってやっておるのが実情でございます。やはり私が考えますに、松田町のブランドはミカンとお茶だけでいいというものではございません。やはり若者に受けるには、肉系統とかラーメン系統とか、そういったものがあろうかと思っております。そこで、今どうしても飲食店組合さんにだけ頼っているような食のブランドづくり、飲食店組合さん、また商工振興会、そしてなおかつこの行政、三者が一体となってもうやっぴかなければならぬだろうなど。どうぞお金は出しますから皆さん考えてくださいではだめだと思っております。その辺のところを私は何回かこれ訴えましたが、そのことについて課長、御答弁いただきたいと思っております。

参事兼観光経済課長 おっしゃられますとおり、物をつくるには、飲食店組合は当然製品を…私の申したいのは、まず先ほど来町長も答弁しておりますけれども、一次産業から六次産業までの流れというのがございます。一次産業、例えば農家が物をつく

る、ゴボウをつくる、何をつくるでも結構です。それでも特産品として販売できます。ただ、それがそれを加工する二次産業、三次産業、四次産業、五次、六次まで持っていったときには、それぞれ、要は加工ですよ、加工して最後まで持っていったときにはそれもできると。そこら辺について、うちのほうとしては、当然今は商工振興会、飲食店会、それから今後は農業委員会も通じて、今まで焼酎や何かもございましたけれども、今後もいろんな形で農家の方々にも協力できる。今まではそれがなぜできなかったか。一つには販路の問題がありました。つくったはいいいけれども、よく飲食店組合の会長さんとも話したんですけど、前にトロッコイモですかね、それもつくっておりましたけれども、やはり生産者が1人だけでは広がらない、大勢がつかれるようなものじゃなくちゃいけないよ。ただし、つくったとしても販路をもう少し、私たちだけでは販路ができないよというのはありました。ですから、農業もそうですし、販売者もそうですし、いろんな形のものが一連となってやらない限りはどうしようもない。それがどこが抜けてもだめなところなので、町としてはその接着剤的なものをある程度していきたい。いろんな方にですから働きかけながら、そこを接着して、また販路も同じような形でやっていきたい。

その一例がうちのほうで今、寄の特産品になりつつありますサクラマスというのを今つくっております。それについては、やっぱり苦労してました。おととしまでは。去年、ことしとなって…去年ですね。ことしになりまして、やっぱり飲食店会が主になりまして、マス料理を、カルパッチョとか、いろんなものをつくっております。それでハーブ館でも押し寿司…飲食店でやっているのは押し寿司とかカルパッチョなんですけれども、ハーブ館でも手まり寿司みたいな形でも加工して、マスを、一次産品のマスを利用した料理と。マスは特産品とある、ただ、マス料理としての押し寿司とか何かというのは飲食店でなければできない。またそれを広報活動するのは町じゃなくちゃ、インターネットでもそうです、口コミでいろんなところに掲示するのは町も一緒にやらなくちゃいけない。そういうところが流れができて、何とか去年に比べてことしはその、実際にはその養魚組合でもマスがうまく軌道に乗ってきた、皆様のおかげで軌道に乗ってきたという形で、おかげさまで今年度決算でも黒字になっ

たというふうな報告も受けておりますので、今後ますますそのような形で、一連のものが途中でとまらないような形の仕組みづくりを考えていきたいというふうに考えております。

2 番 中 野 今、サクラマスの話になりましたから、じゃあ課長ね、サクラマスの話をしますけれども、確かにこのことしの桜まつり、サクラマスの押し寿司ですね、これを限定1日50食ということで寿司屋さんが、町のお寿司屋さんが、これは飲食店組合が中心になってやったんですが、50食、大変好評であつと言う間に売り切れてしまうんですね、毎日。私も食べましたけど、大変見た目にもきれいですし、非常に、ああ、これはいいものをつくったなど、これは絶対に松田町の一つのブランド食、食のブランドになるなど、そういうふうに思っていました。今どこで食べられますか、それが、課長。食べられるところがあるんですか、それが。ないでしょう、ね。だからだめなんですよ。せっかくそこまで1カ月間つくり上げて、苦労して…今苦労してって言っていましたね。苦労してつくり上げて、材料はあるんですよ、3,000匹も4,000匹も、ことしまた2万匹買うって言っていましたね。材料は幾らでもあるんです。どうしてそれを松田町の食のブランドとしてつなげないんですか。桜まつりに来て食べられたお客様がおいしかったと。さあもう一度、友達を連れて松田町に行ってあれを食べましょうよといったときにどこで売ってるんですか、あれ。また来年の桜まつりまで待っててくださいでしょう、そうですね。だからだめなんです。こんなことをやってたらね、食のブランドなんて生まれませんよ。

それに、町長のあの「風」とか何とかに松田町の特産品はゴボウなんて書いてありますが、ゴボウっていうのはもうずうっと前のことです。戦前の前のことなんですよ。今ゴボウなんてつくってる人、いませんよ。ですから、ゴボウなんて、町長、ちょっと認識を新たにしてください。今ゴボウはつくってる人はいません。

そういった意味でね、松田町にはね、ぜひこのサクラマスの押し寿司、もう一度検討してください。飲食店組合さんを通じて。

それと、私はね、何度も言いますが、トロッコイモも確かに飲食店組合さんがやられて2年ほど続きました。私もお手伝いに行きましたが、あれはね、混

ぜて何かに使うというだけなんです。あれ一つでブランドになるものじゃないんですよ。お好み焼きの中に混ぜるとか、おそばの中に混ぜるとか。あれ一つで特徴を見出せるものじゃないんです。ああいったものは、私はだめとは言いませんが、ちょっとインパクトがないですね。やはり私は、さっき言うように、松田町には足柄牛というブランドになった牛肉があるでしょう、ありましたね。あれを二宮さんのところの足柄牛を使った何か食べ物、できないのかなど私は常々考えている。あれを使って今一生懸命、この間も神奈川ナビかでやりましたが、開成町の飲食店組合の組合長、神田氏が出てましたが、あの足柄牛を使ってお隣の町が今ブランド化してるんですよ。どうして松田町でつくられた肉がお隣に行っちゃうのかと。私はね、もうね、どうぞ補助金だけ出しますから勝手にやってくださいの時代はもう過ぎてると思います。ぜひ、観光経済課並びにほかの部署もです、関連部署も、その辺のところのことを考えていただいて、だめならば専門家をお願いをして、ね、150万あるじゃないですか、専門家をお願いしてお知恵を借りればいいんです。松田町にはこういう素材があります。この中からどのようなものをつくったらいいのかなという、そういったものをぜひぜひ立ち上げていってもらいたいと思いますけど、どうですか。

参事兼観光経済課長 今おっしゃられましたようにいろいろと、ゴボウは抜きにして、トロッコイモについても、今後は、今は生産も中止という話でございますけれども、新しい産品を見つけるというのも一つですし、また今ある素材、足柄牛等も視野に入れながら、町にそれを運用したいろんなことも考えられると思います。当然栄養士会等も御賛同いただけるところにつきましては、そこら辺にも御協力いただきながら考えていきたいと思っております。どうもいろいろお知恵をありがとうございます。

議 長 町長ね。2番議員が今、もしあれでしたら専門職の人を連れてでもどうだという問いですので、ぜひ。その件も一緒に。

町 長 まずゴボウの話をしましょうかね。ゴボウの話はですね、私、せんだって市村自然塾さんにお伺いをしたんですね。あそこの取り組みは皆さん、議員の方々もよく御存じだと思いますけども、リコーの創設者の方がやられてて、年

間60名ぐらいを無料で、無償で呼んで、自然の体験をさせながら育てていくというような、心を育てていくような教育をされているというところがあるということで、この間行ってきました。なかなか行けてなくて本当に申しわけなかったなと思うところなんですけども。そこではですね、実際ゴボウをつくっているんですね。なぜゴボウをつくっているかといいますと、やはり寄地域のあの土壌がものすごくいいということで、深く1回掘ってふかふかの、それで1回土を掘って、それからもう一回ならして、もうふかふかの状態の中で、約1メートルぐらい掘ってですね、種を植えてゴボウがずっとできるというようなところで、やはりこの地域でのこのゴボウというのは、やっぱり地域の特産品になり得るねという話をさせていただいたところがあったので、昔の方々というか、なぜゴボウをやめられたのかななんて、逆にその方々もお話をされているぐらいの地域なんです。ですから、素材というものを忘れ去ってしまったのかもしれないけども、そういったところにもう一回スポットを当てて、寄地域の土地、気候、風土、そういったところを都市部の方々にも発信をできる本当にいい実践の場だったなということもあって、今回そういった素材を忘れてしまっているところをもう一回生かしていこうというようなことで書かせてもらったというのがありますので、それが1個ですね。

それで、今、議長からお話がありましたけども、まさにおっしゃるとおりだと私も思います。こういった形で補助金を出させていただいて、あとは何もやらないということではなく、まあおっしゃるとおりに第2弾は考えております。ですから、私もこの職になる前には会社から独立をし、自分の生活の場を自分自身で切り開くというようなことをやってみましたけども、なかなかそういうことが難しいんだよ、この世の中はなんておっしゃってましたけどね。いや、それはもう生きるか死ぬかの問題だと思うんですね。生きていくのか、生き抜くのか。もう大人になってしまえばですね、平等じゃないというところが、これは社会資本の中の整備の中の一部でもあるのかなと思いますし、ただ、現状の松田町を見れば、本当に議員がおっしゃるとおりだと思います。ですから、この今回は、商工振興会の会長さんもかわり、その方も企業としてやられている方ですから、その方のお知恵をお借りしながら元気なまちづくりに一緒にな

ってやっていかなきゃいけないというのはありますので、今後我々としてもどんどんアイデアを出して二人三脚でやりながらやっていきますし、ただ、この補助金を活用してもらえないということであれば、やっぱり専門家というかプロを来てですね、プロにこの松田町の素材を生かしてもらってレシピをつくっていただく、そこから1つ、2つ、3つという形で成功例ができてくると、だんだん、じゃあ俺もやってみるかなというふうになりそうな感じもしますので、そこは頭の中に、視野に入れておりますので、実行をしてみたいと思います。ありがとうございます。

2 番 中 野 松田町の姉妹都市でもあります横芝光町、ここがゴボウでね、有名でございますよね。町長はそういう思いからね、あの「風」というものに載せたのであるならば、寄地域で一生懸命でゴボウをつくっていただき、またそれで、それはそれだけで売るのではなくて、それを使った何か食のブランドと、おせんべいでもいいでしょうし、何でもいいです。ぜひそのように持って行ってほしいと思います。

最後に街中トイレの件なんですけど、桜まつりのときに特に多く苦情が寄せられていますのがやはりトイレです。確かに各商店にお願いをして街中トイレという看板を出させていただいてお借りするというような形にもなっておりますが、またお断りする商店もありました。私も目の当たりに見ております。しかしながら、利用をされる観光客に聞きますと、やはり借りづらいというんですね。そこに入ると、借りました、さあ、ありがとうございますで出てきちゃいけないんだと、何か買わなきゃいけないと、そういう思いがどうしてもします。ですから我慢して、どこかあるところまで行っちゃうということで、非常に不評を買っとるんですよ。私もあの駅前店番をやっていてよくわかりますけども、私たちが旅行にまず行ったときですね、特に我々はバスの中とか何とか、飲食を伴って行きますので、まず現地に着きました。私の場合、私に限らず多くの人たちは、まずトイレを探すんですね。トイレを探して、ああ、あそこにいいのがあるな、こっちにもあるなというと、安心してまたその後のビールとかね、お酒が飲めるんですよ。ね、そうでしょう、そういったもんなんですよ。御婦人は、女性の方は特にそうなんです、男性と違いまして。まずトイ

レを探すってよく言われるんです。松田町、トイレ探したってどこにもないんですよね。

先ほど町長は、簡易トイレのね、すばらしいのがあるから設置したいというようにも申してましたけども、私、あそこのJRの駅前のミニパーク、あそこに一度トイレを設置ということが持ち上がった経緯がありましたけども、どうしてあれが立ち切れになってしまったのかわかりませんが、やはりトイレ、確かにお金はかかるでしょう、1,000万、2,000万と、すばらしいものをつくれば。しかし、新東名を見てもごらんのとおりトイレが話題を呼んでわざわざ新東名のあそこの、あそこまで行くんですね、サービスエリアまで。トイレは私も二度も三度も行きました。もう本当に驚くべき、トイレがお客様を呼べるんですよ。そこまでのものをつくれとは言いませんけども、せめて用が足せる立派なトイレ、これは1,000万かかろうと2,000万かかろうと、せめて1基や2基松田町内に欲しいと、そういうふうにするわけでございますけども。まあ町長は先ほど答弁の中で考えていきますということですが、ぜひぜひこのトイレの設置だけは何としてでもつくっていただきたいなと。私の後にも同僚議員がまたこのことについて手厳しく訴えられると思いますけども、その辺のところ、課長でも町長でも、もう一度御答弁をいただきたいと思います。

町長 トイレはつくらないというようなことではありません。おっしゃるとおりに、私も家を設計するに当たってですね、やはり家に帰った後に、皆さんやっぱり比較的トイレに行くのが…ということもあって、やっぱりトイレの設計ってものすごく大事だと思っておりますので、トイレは必要だというふうには認識をしております。

ただ、今から都市マスタープランということで、駅前周辺の再開発も含めて絵をかいて、かく予定で、ことはしておりますし、その部分に例えばこういった計画道路が必要であるとかといったときに、とか建物がどうしてもものつかるというような絵があったときにはですね、この常設で1,500万前後のお金をかけてトイレをつくった場合に、またそれをどうにしまさなきゃならないということを見ると、税金の使い方からしてどうかなというふうに思われてしまいたくなかったので、今おっしゃるような仮設トイレがありますので、そういっ

たものを活用しつつ近々の対応をしてまいりたい。その絵の中で、もうここは問題ないというエリアができ上がってきたときには地域の方々に御了解をいただいて、過去にそういったいたずらがあつて管理関係でうちはノーサンキューだよと言われたようなところも聞き及んでいるところを、やはり協働のまちづくりとして、本当に観光事業を推進してまいりたいという思いが大分強くなってきている方々がおられますので、そういった方々と協力してですね、トイレの設置に向けては進めてまいりたいというふうには思っております。以上です。

2 番 中 野 観光立町として生きていくなれば、トイレっていうのはずっと絶対必要不可欠なものだと思います。それで、マスタープラン、都市マスタープランによって、またそこが邪魔ものになることがあるから、今常設のものでなく仮設のすばらしいものがあるのであるならば、それでも結構です。早急にそれらの仮設のトイレを設置していただきまして、しっかりとしたマスタープランができ上がった時点ですばらしい常設のトイレをと。

そしてもう1点、若者たちが悪さをするということで撤去してしまったという経緯があるとおっしゃられてましたけども、やはりですね、じゃあ全国ある公衆トイレ、みんなそういう意味で若者が悪さをするからといって撤去しているかという、そんなことはないわけですね。もう多分過去の1つや2つの例によってそういったことがまだ語り継がれているのではなかろうかと思っておりますので、ぜひ松田町を活性するためには、まずトイレからというふうに考えておりますので、実現をしてほしいとお願いを申し上げまして、私、ちょうど時間がまいりましたので終わります。ありがとうございました。

議 長 以上で受付番号第2号、中野博君の一般質問は終わります。

暫時休憩いたします。11時5分より再開いたします。 (10時48分)